

授業科目名	教育原理	教員名	河原 国男	免許・資格との関係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	必修
授業形態	講義	担当形態	単独		保育士	必修
					こども音楽療育士	
科目番号	SEN102	配当年次	1年後期	卒業要件	小幼コース	必修
単位数	2単位				幼保コース	必修
科目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園、保育所、認定こども園・小学校及び中学校）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想					
一般目標	<p>(1)教育の基本的概念 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。</p> <p>(2)教育に関する歴史 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。</p> <p>(3)教育に関する思想 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。</p>					
到達目標	<p>(1)教育の基本的概念 1)教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。 2)子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。</p> <p>(2)教育に関する歴史 1)家族と社会による教育の歴史を理解している。 2)近代教育制度の成立と展開を理解している。 3)現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。</p> <p>(3)教育に関する思想 1)家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。 2)学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 3)代表的な教育家の思想を理解している。</p>					
授業の概要	教育の基本概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ変遷してきたかを理解する。それにより、教師としての実践的指導力に必要な、教育の基礎的理解を深める。アクティブラーニングとして、振り返りやレポート等を取り入れる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている。」「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業計画	<p>第1回：はじめに・子ども成長プロセス ～「かかわる力」に着目して～（目標(1)-1), 2))</p> <p>第2回：子ども成長プロセス ～「かかわる力」に着目して～</p> <p>第3回：教育の原理的な問い ～アリストテレス習慣づけの概念～（目標(1)-1), (3)-3))</p> <p>第4回：教育の原理的な問い～ペスタロッチの家庭的養護の思想～（目標(3)-1), 3))</p> <p>第5回：教育の原理的な問い～『エミール』と社会史的出来事としての「子ども期の発見」～（目標(1)-1), (2)-1), -2), (3)-3))</p> <p>第6回：教育の原理的な問い～コメニウス「学校」構想とソクラテス「産婆術」～（目標(1)-1), (2)-2), 3)-2), (3)-3))</p>					

	<p>第7回：「向上」の概念 ～ケアリングとしての教育～（目標(1)-1))</p> <p>第8回：「向上」の概念～煉獄」／“試練”の経験事例～（目標(1)-1)</p> <p>第9回：教育的態度の3類型 ～フォーコー／支配関係～（目標(1)-1)，(3)-2)，3))</p> <p>第10回：教育的態度の3類型～仁斎／指導関係～（目標(1)-1)，(3)-2)，3))</p> <p>第11回：教育的態度の3類型～ソクラテス／同朋関係～目標(1)-1)，(3)-1)-3))</p> <p>第12回：学校の史的成り立ちと現在～教育共同体としての「学校・家庭及び地域住民等との相互の連携協力」～（目標(1)-2)，(2)-1) 2))</p> <p>第13回：「学校」概念とその拡張～小中一貫連携教育及びコミュニティ・スクールの発展～（目標(1)-2)，(2)-2)，3))</p> <p>第14回：教育目的の公共性理念 ～他者との協働～（目標(1)-1)，(2)-2)，3))</p> <p>第15回：「いのち」の危機にどう向き合うか ～「援助希求能力」(目標(1)-1)，(2)-3，(3)-1))</p> <p>期末試験</p>
学生に対する評価	<p>授業の展開の中で課す必読図書感想レポート20%・基本概念に関する小テスト10%、期末試験（最終レポート）70%、ノート筆記の有無など、平常点も加味する場合もある。</p> <p>なお必読図書感想レポート、最終レポートはGoogle Drive に掲載し、互いの学習成果について、閲覧できるようにする。</p>
時間外の学習について	<p>事前・事後学習として週4時間以上行うこと。</p> <p>その際、下記の点に留意する。</p> <p>1) 所定のテキストでの既習事項とどのように関連するか、毎回再確認するとともに、関連すると思われる事柄（類似例、対照事例等）について、授業者の指摘内容とは別に自由に考えてみる。その上で、テキスト、あるいはノートにメモしておく。できれば、授業者に意見を求める。</p> <p>2) テキストで記載されている内容に関する事項解説について、さらに調べてみる。関係する文献、資料名などについて、テキスト、あるいはノートにメモしておく。</p> <p>3) 「教職概論」でとり上げた学校内容、教師の職務内容との関連について、授業者がふれた指摘事項をさらに発展させて考えてみる。</p> <p>4) 毎回の受講者のコメント（本学のユニバに掲載）をつねに参照し、自身の所見との異同特質について考え、ノート等にメモしておく。</p>
テキスト	<p>河原国男『教職基礎～「教職概論」・「教育原理」～』（2023年度版）を使用する。本テキストとの関連内容の資料を授業時にあらかじめ配付する。事前学習のために活用すること。</p> <p>下記の中教審答申も、教育原理の視点から重要である。適宜、授業において参照する。</p> <p>平成28（2016）中教審答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」</p> <p>平成27（2015）中教審答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」</p> <p>平成22（2010）中教審答申「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」</p> <p>令和4（2022）文科省「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き」。</p>
参考書・参考資料等	<p>吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫、を必読文献とする。「教職概論」で指定している参考文献『人と教育双書 斎藤喜博 授業入門』国土社、も適宜参照することが望ましい。</p>
担当者からのメッセージ	<p>「教育原理」を学ぶことで、広い視野で、洋の東西、古今を問わず、また、幼小期の教育のみならず、生涯の学びもまた、教育の事柄が原理的に見通せるようになるでしょう。</p>
オフィスアワー	<p>水曜日16:30-17:00 メール等でアポイントを取ることが望ましい。</p>